

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の定着については、約半数程度の児童に課題がある。</li> <li>文章を書くことについては、約半数程度の児童に課題がある。</li> <li>文章の読み取りが25%程度の児童に課題がある。</li> <li>学年の実態として、話すことが苦手な児童は15%程度、相手の話を正確に聞くことは、30%程度の児童に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字の学習では、筆順や成り立ちなどを確認して覚える。</li> <li>のほら日記という創作日記を取り入れて書く力を付けていく。</li> <li>朝読書や図書の時間に、図書支援員を活用して読み聞かせや本の紹介をし本に親しみがもてるように指導する。子供たちによる本の紹介を積極的に行う。</li> <li>朝の会で一分間スピーチを取り入れて定期的に人前で発表する機会を作る。授業では、一斉読みや一人読み、表現読みなどの音読を取り入れ、言葉の語感を育てる。黒板の板書を最後まで視写をさせることで、書くことの力を付けたりや漢字の定着を図れるようにする。</li> <li>メモをとって話を聞く機会を定期的に設ける。</li> <li>6年の学力調査国語では、書くこと、読むことを苦手としている児童が多いことが分かった。3年生でも苦手としている児童が多いので、授業の中では、文章を何度も読むようにして、読み取りが得意になるようにする。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設や交通などを利用する児童が少なく、体験からの学びが少ない。そのため、指導事項と体験をつなげて考える事ができる児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な学習や、映像教材を扱う機会を増やす。</li> <li>農家見学、スーパーマーケットの工夫についてゲストティーチャーを招いてのインタビュー、警察署、消防署見学などを実施し、実際に働いている方々から講話を聴くことで、働く人々の思いに触れる機会を増やす。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>たし算とひき算の筆算では、単元末テストの知識・技能において学年の達成率が83%と特に繰り下がりのあるひき算でつまづきが見られた。</li> <li>時刻と時間の学習については、東京ベーシックドリル診断シートの結果から時間を分に直したり、分を秒に換算したりする問題の平均正答率が65%であり、4割近くの児童に既習事項が身に付いていない。</li> <li>診断シートの長さやかさの単位換算の満点率が35%であり、6割以上の児童に既習事項が身に付いていないことが課題である。</li> <li>かけ算九九81問の満点率が4月と比べると7月は24%から48%に上がったもの、依然として半数以上の児童が完全に習得していないことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り下がりのあるひき算の筆算では、位ごとに計算することは分かっているが、ひけない場合に上の位から繰り下げる計算方法に戸惑う児童が多い、まずは、数カードで繰り下がりの意味を理解させた上で朝学習や授業開始の数分を使って同じ型のひき算の問題をパターン別に反復練習する。</li> <li>日頃の学校生活から時刻や時間を結び付けて考えさせ、実感と共に定着させていく。</li> <li>日常生活において、長さの量感を養っていく。授業では、単位換算に関する問題に集中して取り組む時間を学期に数回計画する。</li> <li>満点率を100%に近づけるために、朝学習の時間に九九を練習する時間を定期的にとり、特に苦手な児童に限っては取り出して個別指導する。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察の際、対象物を細部まで見て表現することが苦手である。</li> <li>重要用語の正しい使い方が定着していない。</li> <li>実験の際に、予想を立てる→実験をする→結果から分かったことを導くことができる児童が約半数程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視点を与えて観察させる。具体例を示してからかくようにさせる。</li> <li>重要用語の正しい使い方を繰り返し指導し、定着させる。</li> <li>問題を立てる前に、体験活動を十分に取り、気づいたことや疑問を国語の学習で学んだことを生かして、文章で書かせた後に出させ、問題につなげるよう指導する。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で歌唱・リコーダーの全体指導及び個人の演習時間の確保ができなかったので発声やタンギングが身に付いていない指導が多い。</li> <li>リコーダーの奏法で躓く児童が3割ほどいる。</li> <li>拍に合わせて正しくリズムを打つのが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞やサイレント奏法でイメージをもたせながら、時期がきたら指導する。</li> <li>必要な児童にリコーダーの個別指導を重点的に行う。</li> <li>拍打ちとリズム打ちを意識させる。リズム打ちに小物打楽器の使用や身体表現などを取り入れ、楽しく活動しながら身に付くようにする。</li> <li>鑑賞では、国語で学習した話型や文型を意識して鑑賞カードに書かせる。</li> </ul>	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>構想を練って表したいことや表し方について考えることが苦手である。</li> <li>用具や材料の基本的な扱い方は身に付いているが、表したいことに合わせて、適切に用具や材料を用いることが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達同士での教え合い活動(得意な子から不得意な子への教え合い、声かけなど)や個別指導を取り入れていく。</li> <li>たくさん褒めることや、それぞれの運動の特性や楽しさを味わわせる。場や授業展開を工夫することで、「楽しそう」「やってみよう」をより多く引き出し、どの運動にもすすんで関わられるようにする。学習カードで自分の目標を設定し、意欲を引き立てる。</li> <li>コオーティネーショントレーニングを通して、体をイメージ通</li> <li>コオーティネーショントレーニングを通して、体をスムーズに、イメージ通りに動かすことができるようにする。</li> <li>体力の維持向上のために、授業時間では短縄や大縄を授業の始めに取り入れれたり、休み時間の全員遊びを実施したりするなど、外遊びを奨励する。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の体を思っている通りにコントロールできていない児童が約3割程度いる。</li> <li>7月に実施した反復横跳びの平均は24.5回であり、都の平均より8.7回低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コオーティネーショントレーニングを通して、体をイメージ通</li> <li>コオーティネーショントレーニングを通して、体をスムーズに、イメージ通りに動かすことができるようにする。</li> <li>体力の維持向上のために、授業時間では短縄や大縄を授業の始めに取り入れれたり、休み時間の全員遊びを実施したりするなど、外遊びを奨励する。</li> </ul>	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳的価値を、自分の生活の中で生かすことが難しい児童が1割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で実生活との関連を考えさせたり、実生活の中でも道徳の授業で学んだことを取り入れた指導をする。また、何か問題が起こったときに道徳の授業でやったことを振り返る。</li> </ul>	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTの発音を聞いて、真似て言うことができない児童が多い。</li> <li>初めて聞く語句や、基本的な表現に苦手意識をもつ児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームやチャンツなどを取り入れて、英語を楽しみながら学べるように指導する。</li> <li>必要に応じて、日本語で解説を加えて授業を行う。</li> </ul>	
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な施設、物事、事柄について、「なぜ？」と疑問をもつことが少ない。</li> <li>自分の課題に合わせて調べる際、体験や現地調査に対する意欲がある児童は16%と低く、インターネットでの情報収集に頼りがちである。</li> <li>文章を書くことに課題があるため、まとめの文章が伝わりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査へ行ったり、ゲストティーチャーに直接話を聞く機会を設け、児童が気づいたり、考えたり、主体的に学ぶ学習を取り入れる。</li> <li>国語の学習を通して、文章を書く力を高めさせる。</li> </ul>	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。